

この『履修要綱』は、学則で定められた履修すべき授業科目と単位を、学部・学科・専攻分野ごとに説明したものです。

特に変更の指示がない限り、この要綱にしたがって卒業まで履修することになります。
卒業まで大切に保存し、活用してください。

◆◆◆◆◆ 第1章 大学における学修について ◆◆◆◆◆

1. 学 修 の 流 れ

カリキュラム

大学での学修計画をたてるうえで、まず「卒業までに、どの学年で、何単位修得すればよいのか」を知ることが前提となります。「カリキュラム」とは、そのための授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したものです。自分が所属する学科のカリキュラムにそって履修計画を立て、必要な単位を修得することで、卒業が認められ学士の学位が授与されます。

卒業要件

卒業資格を得るためには、所属する学科の卒業要件にしたがって、124 単位を修得しなければなりません。(詳細は所属する学科のページ参照)

| | |
|-----------------------------------|---|
| ① 教養総合科目 36 単位 (人間開発学部は 26 単位) | 全学部の共通教育として開講されている科目 (P81 参照) |
| ② 専門教育科目 64 単位 (人間開発学部は 74 単位) | 所属学科のカリキュラムとして開講されている科目 (各学科のページ参照) |
| 右記 a)～c)を自由に組み合わせて選択※ 計 24 単位 | a) 教養総合科目で上記①を超えた単位 b) 専門教育科目で上記②を超えた単位 c) 全学オープン科目の単位 (P94 参照) |
| 合 計 124 単位 | |

※①②以外の 24 単位については、自身の学修計画に応じて a)～c)を自由に組み合わせる選択が可能です。また、副専攻プログラム (P94 参照) で指定された科目を修得した場合、「副専攻修了証」が授与されます。

単 位 制

単位制とは、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学修評価をしたうえで、以下の基準により定められた単位が与えられる制度です。

授業科目は、1 単位につき学修活動 45 時間を標準としています。

1) 講義及び演習科目

毎週 1 時間 15 週の授業に対して 1 単位が基準となっているもので、毎週 2 時間 (実際上は 90 分になっているが、制度上は 2 時間と計算している)の授業を行い、半期 (15 週) で完結するものは 2 単位、通年 (30 週) で完結するものは 4 単位となります。

2) 講義と、実験、実習及び実技を併用する科目 (講義を四分の一以上実施する科目)

毎週 2 時間 15 週の授業に対して 1 単位が基準となっているもので、毎週 2 時間 (実際上は 90 分になっているが、制度上は 2 時間と計算している)の授業を行い、半期 (15 週) で完結するものは 1 単位、通年 (30 週) で完結するものは 2 単位となります。

3) 実験、実習及び実技科目

毎週 3 時間 15 週の授業に対して 1 単位が基準となっているもので、半年 (15 週) で完結するものは 1 単位となります。

コメント [AY1]: ×履修

追 試 験

- 注1) 授業時試験・期間内試験を受験する際には、「受験上の注意」(P189)を熟読する。
 注2) ペンまたはボールペン書きとし、ページをふり、所定の表紙をつける。様式・枚数等については担当教員の指示に従って作成する。締切日時を過ぎたものは、一切受理しないので注意する。

期間内試験・授業時試験を病気その他やむを得ない理由により受験できなかった学生に対して、追試験を行います。追試験の受験を希望する者は、指定された申込期間中に所定の追試験願に欠席の理由を証明する公的書類(コピー不可)を添え、受験料を納入の上、教務課へ申し込んでください。自己の不注意および次表に示す証明書のない場合は、理由の如何を問わず追試験を受けることはできません。

欠席理由と証明書・受験料は次のとおりです。

| 理 由 | 受験料 | 証 明 書 |
|---------------------------------------|-----|--|
| 病気・怪我 | 有料 | 医師の診断書(試験当日に通院・療養中であつたことを証明するもの)。他は不可。 |
| 学校保健安全法(第19条出席停止)に基づく感染症の罹患(インフルエンザ等) | 無料 | |
| 忌引(両親、兄弟、姉妹、祖父母) | 無料 | 死亡に関する公的証明書(会葬礼状でも可) |
| 就職試験 | 有料 | 就職試験受験を証明するもの |
| 災害(台風、水害、火災等) | 無料 | 官公庁による被災証明書 |
| 交通関係(事故、遅延) | 無料 | (自宅からの通常の)交通機関の証明書 |
| 授業実習(介護等体験・教育・神社) | 無料 | (神道研修事務課、教務課の)証明書 |
| 裁判員に選任 | 無料 | 呼出状(確認後、返却します。) |

- 注1) 追試験受験の際は、「受験上の注意」(P189)を参照。
 注2) 再試験(4年次生のみ)については、学年末にホームページで知らせます。

成 績 通 知

すべての成績は、各年度9月中旬および3月下旬にK-SMAPYで通知します(4年生は3月上旬に通知)。各自が保証人に見せたいうえで、前期・後期の履修登録の際に活用してください。なお、成績評価の基準は以下の通りです。

| 評価 | 基準点 | 合 否 | QPI ^{注1)} |
|------------------|--------|-------|--------------------|
| A ⁺ | 100~90 | 合 格 | 4.0 |
| A | 89~80 | | 3.0 |
| B | 79~70 | | 2.0 |
| C | 69~60 | | 1.0 |
| G ^{注2)} | なし | | 対象外 |
| N ^{注3)} | なし | 対象外 | |
| D | 59~0 | 不 合 格 | 0.0 |
| R ^{注4)} | 評価対象外 | | 0.0 |

- 注1) QPI: 1単位に与えられるポイント。Quality Point Indexの略。
 注2) G=一定の基準をクリアした場合に与えられ、ABC評価をしない場合に用いられる評価。
 注3) N=本学入学前に修得した単位、単位互換制度(共同授業)や検定・資格試験等を利用して修得した場合の成績評価。単位が認定されます。
 注4) R=授業出席日数不足、定期試験やレポートの提出を放棄した場合の成績評価。単位は認定されません。

コメント [AY1]: 挿入

G P A 制 度

本学では、成績評価の公平性・透明性を維持・確保し、主体的かつ責任ある履修、学修・教育成果の向上をはかることを目的に、学修支援体制のひとつとして、GPA制度を導入しています。GPAとは、Grade Point Averageの略称です。各年次におけるGPA値は、登録した科目の単位数と成績評価ごとに定められたQPIを用い、登録した各科目の単位数にQPIを乗じたものの合計(Y)を、登録した科目の単位数の合計(X)で割ることにより求められます。

【中国文学科】

| | 科目名 | 単位数 |
|----------|--------------|-----|
| 学科専門教育科目 | 中国語教養基礎 | 2 |
| | 中国語教養基礎 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |
| 教養総合科目 | 中国語中級 A | 1 |
| | 中国語中級 B | 1 |
| | 中国語中級 | 1 |
| | 中国語の表現中級 | 1 |
| | 世界の文化と生活 078 | 2 |

【外国語文化学科】

| | 科目名 | 単位数 |
|----------|--------------|-----|
| 学科専門教育科目 | 中国語演習 | 2 |
| | 中国語コミュニケーション | 2 |
| 教養総合科目 | 中国語中級 A | 1 |
| | 中国語中級 B | 1 |
| | 中国語中級 | 1 |
| | 中国語の表現中級 | 1 |
| | 世界の文化と生活 078 | 2 |
| 全学オープン科目 | 中国学特殊講義 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |

コメント [AY1]: × 共通領域

【その他の学科】

| | 科目名 | 単位数 |
|----------|--------------|-----|
| 教養総合科目 | 中国語中級 | 1 |
| | 中国語の表現中級 | 1 |
| | 世界の文化と生活 078 | 2 |
| | その他の教養総合科目 | 2 |
| 全学オープン科目 | 中国語教養基礎 | 2 |
| | 中国語教養基礎 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |
| | 中国学特殊講義 | 2 |

コメント [AY2]: × 共通領域

10. 履 修 保 留

9月開始の協定留学（セメスター留学も含む）または認定留学をする場合、履修中の通年開講科目については、履修保留が可能な場合があります。この場合、継続履修の意思を表示するための履修保留の申請が必要です。

コメント [AY3]: 挿入

履修保留を希望する者は、留学開始前に履修保留願用紙を提出し、履修保留を受ける科目について学部教授会の承認を得る必要があります。履修保留が認められた科目については、履修している通年科目の前期分の出席・評価等を保留することができ、帰国後に継続して後期分を履修することで、通年としての評価を受けることとなります。

注）履修保留が認められた科目でも、留学終了後に履修を継続できないことがあります。